

中島地区タウンミーティング

平成23年3月20日(日曜)

【司会】 皆様こんにちは。ただいまから「タウンミーティング、笑顔あふれる中島をめざして」を開催いたします。

このタウンミーティングは、住民の皆様から地域の魅力や課題などについて生の意見をお聞きし、地域の理想像を実現していくために、皆さんができること、行政ができること、そして皆さんと行政が力を合わせてできることにはどんなことがあるんだろうといった、前向きで夢のある対話をすることを目的に行っております。

それでは、まず初めに野志克仁松山市長からごあいさつを申し上げます。

【市長】 皆様、こんにちは。松山市長の野志克仁でございます。今、皆さんから笑顔がありましたけど、こういう感じでざっくばらんにやらしていただくと思っております。

私が公約に掲げておりました「1人でも多くの方を笑顔に 全国に誇れる、わがまち松山」ということをキャッチフレーズにいたしまして、そして、7本柱の公約を掲げておりました。こういう7本柱で皆さんを笑顔にしていきたいという公約を掲げていたんですけど、そのいの一に掲げておりましたのが、「『誇れる』行政サービスで笑顔に」。松山市役所というのは、誇れる行政サービスをせんといかんやないですか。そのためにどういうことをするか。私は、放送局のアナウンサーとして20年間、現場、現地に出続けた毎日を過ごしてまいりました。現場だからわかるアイデア、知恵、楽しさ、逆に苦しさ、現場だからわかることというのを教えていただいてきました。これを、これからも反映していきたいという思いで、このタウンミーティングを、早速始めさせていただきました。第1回が五明でさせていただきました。第2回は北条でさせていただきました。そして、3回目がここ、中島ということになります。

さて、このタウンミーティングでございますが、大事なのは、まちの魅力をしっかりと把握することです。人間というのは、同じ地区に住んでいると、自分の住んでいるまちを過小評価してしまうんですね。そういう魅力をちゃんと捉えることによって、しっかりとしたまちづくりができると考えております。

ですので、皆さんには、まず中島の魅力は何ですかというのを教えていただこう

と思います。そして、その中島の魅力をより伸ばしていくためにはどうしたらいいでしょう。それを皆さんと一緒に考えていけたら。逆に、お困りな点、課題もあると思います。どの地区もそうだと思います。課題のないところ、困っているところがないなんて、そんなまちはないと思います。ですので、今回、皆さんのお困りな点、課題などを教えていただいて、その課題をどうやって解決していこう、どうやったら解決していけるだろうというのを皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

また、きょうも新聞社の方が来られてますけども、翌日の朝刊とかに出るんだと思いますけど、ああいう模様がこういう形で新聞で報道されるんだなというのをまた見ていただくのもよろしいかと思えます。

とにかく有意義な時間にしたいと思っています。きょうはどうぞよろしくお願いいたします。

【女性】 中島の魅力について、中島は自然環境に恵まれて、おいしい海の幸、おいしいミカンで、四季折々に風に香りがありまして、5月にはミカンの花の香りで島じゅうが包まれます。あと、時間の流れもゆったりとしていて、まだまだ知られていない歴史的な資源も沢山あります。こういった島の魅力をどんどん発信していただいて、中島のファンを増やしていただけたらと思っています。

次からは要望なんですけど、去年の9月4日に中島文化センターで「忽那諸島の歴史を探るシンポジウム」が開催されました。中島でも忽那水軍についてよく知らないという方もいらっしゃいます。中島の先人たちの、勇敢に生きてきた人たちのことを知って、人として誇りを持って生きていくというか、今は心の時代とも言われていますから、文化面にも力を入れていただいて、シンポジウムも一過性のものにするのではなくて、小冊子にまとめるとかして、地域から発信していただけたらと思います。

まだまだ歴史的な資源がたくさんありますし、歴史的な資源が流出されないうちにまとめるということをしていただけたらと思います。

もう一つは、松山には「広報まつやま」がありますが、昔、中島町であった頃には、「広報なかじま」というのがありました。大きい行事とかそういうことは広報で知ることができるんですけど、地域の中でも出来事、ニュースとか色々あります。私の地区は小学校も統合になりましたので、子どもは今何人いるのか、そういった

ことも情報が全然なくて、どなたが亡くなったとか、どなたが生まれたとか、そういうことも全然分からないような状態で、まちから比べたら、まだまだつながりは深い方だとは思いますが、だんだん薄れていっているような気がします。かわら版的なものでいいんですけど、時々そういうものが発行できないかなということをお願いしたい。そういう情報を共有することで、地域の繋がりとか色々と、繋がっていきませんかだと思います。

【市長】 まず、シンポジウムのことからお話をいたします。これは、しまはく関連事業として歴史シンポジウムを開催したそうです。記録集の要望があるというのを聞いております。指定管理者との調整というのが必要になりますが、記録集を作成して、地元へ配付させていただくとか、出来るんじゃないかと思っております。

しまはくは一段落しましたけども、4月から、例えば中島総合文化センターと考古館との連携事業を引き続き考えております。古代体験教室とか出前講座は、継続して実施できるように予算をしております。また、釣島の釣島灯台をめぐるツアー、文化紀行は毎年実施しています。これも引き続き忽那諸島の歴史を紹介していきたいと思っております。

今、忽那水軍のことが出てきたんですけども、これもまたプラスのことだと思うんですよ。村上水軍はよく知られていますが、忽那水軍はまだ知られていない。忽那水軍のことを紹介すると、そんな歴史があったんかや、と興味を引きますよね。これもまたメリットだと思うんです。知られていないと思うか、これからチャンスだと思うのか、どっちかですよ。忽那水軍があるというのはプラスだと思います。これからもやっていきたいと思えますし、文化財の看板を替えている。平成17年度以降、英語の解説文をつけた、松山地区と同じものに徐々に替えていて、中島地区には53件の指定文化財があって、建造物、あと史跡など、解説の看板が必要と思われる36件については、本年度、3月までに14本の配置替えをもって完了ということで、色々取り組みはやっているところです。ですので、これから、忽那水軍のことをどう盛り上げていこうかということも、島の方から皆さんで考えて、行政と一緒に考えていくのが大事なことと思っております。

広報のことについては「広報まつやま」がありますが、確かに中島の今子どもらが何人くらいおってとか、何しよってとか、載ってないですね。これが載ったら確かに素敵だと思います。相互理解が大事だと思うんですね。松山のことを知っても

らう、北条のことを知ってもらう、中島のことを知ってもらう。相互理解することによって、人の交流も出てくるのではないか。中島に行ってみようかなと。中島のこととか北条のことについて、確かに広報では少ないと思うので、何か考えて。

【市民部長】 今、まちづくり協議会の中では、まちづくり通信という形で、住民の方たちが広報紙を作っており、まち協と連携すると、まちづくり通信の中にその地域独特のテーマを入れることもできると思います。我々も参考になりますので、研究をさせていただきたいと思います。

【企画政策課長】 去年、しまはくのときはしまはくコーナーというのを設けて、しまはくをご紹介させていただいた、また研究させていただくということでご理解願いたいと思います。

【市長】 確かにいいご意見ですね。中島とか北条のことを出すことによって、ああ中島はこんな人がおるとか、こんな話題があるとか、行ってみたいなとか、確かにいいと思います。参考にさせていただきます。

【市民部長】 この件については、1回持ち帰りまして、部局が渡っておりますので、調整してきちんとお答えするというところでよろしくお願いします。

【市長】 タウンミーティングのいいところは、その場限りにしないんです。持ち帰らせてもらって、検討させていただいて、市としてはこういうふうを考えていますと必ずお伝えします。

もうちょっと魅力のことについて。魅力をしっかり捉えると、まちづくりがしっかりできますので。どうですかね。

中島はいいことにまちづくり協議会が既に出来ています。このまちづくり協議会で、色々な意見を交わしていただいて「中島はこういう特徴がある、こういう魅力があるけん、私らは中島をこういうふうにしたいんです」というのを住民の方が一体になって言っていただくと、本当にいいまちづくりができると思うんです。

ちょっと例え話をしますと、住民の方が固まっていない、ざるといいんでしょうか、網の状態、すき間が一杯あると、行政が、例えば補助金といったら一っとやったとしても、網からざ一っと水が抜けてしまうと思うんです。でも住民の方ががっちり一体になって、受け皿になっていただくと、水はしっかりと受け皿にたまる。これは大事なことです。

まちづくり協議会といういい組織がありますから、一体になって、中島はこんな

魅力があるけん、こうしたいと言っていたらと本当にいいまちづくりができると思います。このまちづくり協議会を大事にしていきたいと思います。

【男性】 17集落、この島にはあるんですけども、個々の集落によって歴史、成り立ちも違いますので、色んな考え方もあるようです。その中で、一番に挙げているのは、我々が住んでみようとしている魅力は何か、そういう魅力集めとこういうところを改善したいというのを、今年の秋までには全部終えて、中島をこうしたいという方向性を提出したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【市長】 松山には公民館地域で41地区があるんですけど、今まちづくり協議会、準備会含めてできているのが10です。まだまだ4分の1ですから、その4分の1までしかないまちづくり協議会が中島にあるというのは、とても素敵なことだと思いますので、ぜひ生かしていただきたいと思います。

【女性】 しまはくで、忽那水軍カレーというのもさせていただいて、時々イベントで売らせていただいているんですが、中島の魅力は沢山あるんですけど、中島は日曜日に遊びに来てもお休みデーで、何もなくて、それで、遊びに来られても接待できないというのが私たちのジレンマですけど、しまはくの後の私たちの仕事として、アンテナショップを去年からお願いしているんです。それは、日曜日を楽しんでいこうということで、中島の支所長さんが一生懸命尽力してくださって、一応予算もとっていただいて、実現できるようになっているとは聞いているんです。

それから、しまはくで実際に働いた女性たちが、今度は自分たちで動いていこうということで、今度、3月26日に集まることにして、色々アイデアや要望を出し、集約して市長さんのところへ持っていきますので、どうぞ聞いてください。

それから、昔の姫ヶ浜はすごく賑やかで、船にいっぱい、鈴なりの人たちが来ていたんです。今はちょっと民宿とかさみしくなって、姫ヶ浜荘ぐらいしかない、そこが老朽化しているので、何とか考えていただきたいというのが2つ目です。

それから、これはちょっと市長さんにお伺いしたんですが、公約で愛ランド里島構想というのを掲げていらっしゃるんですが、中島を含めて、どういうことを予定しておられるのかお聞きしたいと思います。

【市長】 海の駅って7カ所あるそうで、上怒和だったですかね、港のすぐそばにあったかと思うんですけども、あそこでアンテナショップできんのか、ちょっと経緯

を調べてみたら、国庫補助事業で建設された施設がほとんどで、これらの施設は活性化施設として、特産品の展示までは認められているそうです。特産品の販売については、目的外ということで認められていない。ここで、販売目的を地域の活性化に絞るなど、条件をクリアすれば、法的な手続きを踏んだ上で利用することが可能になるそうです。

【産業政策課長】 本来的な目的は特産品の展示ですけれども、一部販売につきましては、条件さえクリアし、なお且つ県の方とも協議も必要となりますので、具体的な話につきましては、県との協議に私たちも協力していきたいと考えています。

【市長】 県の農林水産課ですか。

【産業政策課長】 はい。

【企画政策課長】 今おっしゃられたアンテナショップの件ですけれども、しまはくをやって、物産とか色んなものが生まれまして、大浦の近くでアンテナショップみたいなのを開きたいということで、予算要求させていただいたんですけども、それが通りまして、今後、その件については支所と一体になって、地元の方と協議させていただいて、決めていきたいと思っております。

【市長】 今の話だと、ちょっと明かりが差したような感じですね。ですから、行政とのうまいつき合い方というか、例えば、何か困っていることがあったら相談してもらおうと、明かりが差すこともありますので、また、相談してもらったらと思います。

姫ヶ浜のことについてお話をさせていただきます。姫ヶ浜荘は指定管理者NPO法人に運営管理していただいている。しまはくを開催するにあたりまして、トイレの修繕、洋式トイレを設置した。そして外壁を塗装した。お風呂のカーペットの張りかえをした。そして、脱衣所の修繕をした。エアコンの取り付けをした。こんなことをやってきまして、4月から、地デジ対応のテレビを購入することにしておりまして、宿泊客のサービス向上を目指すとともに、環境整備に努めようとしております。

ほんなら姫ヶ浜荘の建て替えをしてくれたらええやないのと思われるかもしれませんが、これが老朽化、28年経つんですね。海岸整備工事をした後に、沿岸付近の地盤沈下が進行しているということで、修繕をしたらいいのか、建て替えをしたらいいのか、検討しないといけない、今はそういう段階です。姫ヶ浜荘ですけど、平

成17年は767人だった利用客が、今は1,189名まで増えてきているという現状があります。修学旅行の体験学習もできているので、これからも生かしていきたいと思っています。

愛ランド里島構想、これをお話しないといけません。公約に書かせていただきましたけど、最初、私、過小評価してしまいますと申しあげましたよね。で、「愛ランド」、島です。「りとう」は、「離れた島」と皆さんついつい頭に浮かべてマイナスイメージになっちゃう。これを「里の島」と考えませんか。ふるさとの里です。里の島だと考えましょうというのが私の考え方なんです。これまで、私は何度となく中島に来させていただきましたけども、自分のふるさとではないです、正直ね。自分のふるさとではないけども、「ああ、ええとこやなあ」、「ほっとするなあ」、「癒されるなあ」というのがあるといいます。これは多分、松山の多くの方が感じると思います。ミカン畑を見て、「小さいとき、お父さん、お母さんと一緒にミカン摘みしたなあ」とか、きれいな海を見て、「ああうちの近所もきれいな海があったなあ」とか、ふるさを思わせる光景がいっぱいあるのが中島だと思うんです。

離れた島、マイナスに考えるんじゃなくて、うちには誇れる海のきれいさがある、海の幸がある。四季折々で風の香りが変わすばらしいところだと思うんですよね。そういう「離れた島」じゃなくて、「里の島」だと思いたいというのが愛ランド里島構想。松山から来た方、松山だけじゃないです、県内の方、都会から来られた県外の方も、「わあ、ええふるさとみたいなとこやなあ」と感じてもらうようにしようというのが愛ランド里島構想です。

この愛ランド里島構想は、しまはくの発展型とも言いましょうか。しまはくと連携するところが多々あります。島の人に元気になってもらおう。島にもっと来てもらおう。島の魅力を感じてもらおうというのが、この愛ランド里島構想ということになります。

【女性】 ほぼ女子会を開きます。

【市長】 女性たちの集まりですね。わかりました。そういうふうには、地域からの声を教えていただいたらと思います。

【企画政策課長】 1点、3月26日に50名の方が集まって、意見交換をされるとおっしゃられたんですが、ぜひ皆さんのご意見を聞きにまいりたいと思っておりますので、よろしく願います。

【男性】 1つ、基幹産業とも関係があるとは思いますが。今回の地震がありまして、もし今後南海地震でもあったら、中島でもし出来ること、今出来ること、何があるのかな、住宅というようなものがあつたら受け入れることも出来るのかなと考えました。市営住宅もあるし、教員住宅が数戸ほど空いてきていると思うんですが、そういうところがもし、使えることができんかなと思いました。

それと、前々から島に住んでみたいという何件かメールがあつたんです。でも、ただで空き家を紹介することはできない。まず試しに住んでみて、という使用が可能だったらええんかな。それにまた、農業でも体験するために住んでもらう場所的なもの、そこへ1週間なり1カ月なり、住みながら体験出来るという利用の仕方は出来んのかなと思っております。そしたら、来てもらいやすいし、泊まる場所もないのに来てというのも無理やし。それと、船でないと行き来できんので、もし島へ来られた人が、欠航になったら泊まらんといかんようになる。知つとる人にお願ひすれば、快く皆さん引き受けると思うんですが、そうやない人も。そういうところで、海の駅、緊急避難的なものが出来んのかという思いがあります。

それと、最後ですが、せっかくまちづくり協議会もできて、話を集約しよる中で、女性のグループの方の「市役所の誰に言うたらええん、どこに相談したらええん」という声があります。せっかくまちづくり協議会があるので、年に1回ぐらい、そういう協議会の会員さんと、支所を中心としてでもいいですが、もっとざっくばらんに、緊張せずに話し合える場をつくってほしいと思うんですが。

【市長】 まず後半の方から。ざっくばらんな場。そうですね、タウンミーティングは、とりあえず松山市で41カ所を、最初は任期4年で回ろうって思っていたんですけども、もっと早く、3年ぐらいで全部回り切れないか、ちょっとペースを早めているところです。私もざっくばらんに皆さんの現場の声を聞きたいと思いますので、私も来たいと思いますし、職員が来ることも出来ると思いますので、そういう場は大事にしていきたいと思ひます。

私、きょう、神浦に上がって、途中で教員住宅、空いているのがあるのを見てまいりました。神浦は4戸あって、今は誰も住んでいないという状況です。全体で見ると、教員住宅は中島全部で総戸数が72、今入居しているのが33、空いているのが39ということになります。休校から再開する場合がありますので、そのために一応置いておく必要もある。また、教職員の人事異動の関係で、使用する可能性もありま

すので、残す必要はあるんです。

そこからの話です。2つの道がありまして、教員住宅という行政財産のまま貸し付けをする場合と、普通財産に用途を変更して貸し付けする場合という、2つに分かれます。

普通財産に用途を変更し貸し付けする場合は、別の目的で利用を検討することは出来るそうです。ですので、今、ちょうど震災が起こって、例えば希望されるのであれば、中島のこの豊かな自然の中で、人もとってもいい中島で過ごしていただけて、心も癒すという方法もとれるそうですので、これに対してもちょっと光が見えてくるという形になります。

もう1個の、教員住宅という行政財産のまま貸し付けをするものだと、教員住宅という目的を妨げない限度において、許可による有償での使用が認められるという形になるそうです。

【男性】 合併してこの6年間の間に、過疎、高齢福祉に対して、第1点は、地区社協の地域福祉の拠点整備ということを掲げてきました。それは、何も新しいものをつくれという意味じゃないんです。特に東小学校を有効利用するというところで、合併の当時にかんかんがくがくやってきております。その段階で、この旧東小学校は福祉センターの拠点にするというのが第一目的でありました。それと、2点は、高齢者に対する支援が、本島地区とちょっと格差があるんじゃないかなろうかという、まず2点だけ申し上げておきます。

この福祉を語る段階において、中島地区の人口構成を把握した上で福祉対策を十分に考えていただきたいと思います。平成23年1月1日、住民登録されておる人口は4,981人と5,000人を切りました。22年10月1日の国勢調査では、4,631人です。その差350人は、松山市内とかに働きに出とるわけでございます。松山市の高齢化率が、21.7%ですが、中島地域だけを考えますと、高齢者が2,666人おるわけで単純に計算しますと53.4%、それから今の350人は元気な人が出るところを考えますと、57.5%でございます。この地域の17集落のうち、高齢化率が、いわゆる限界集落という50%を超えとる地域が10地区あるわけです。その中で一番高齢化率が多いのは二神島78.1%。一番少ないので44%程度でございます。この大浦地区が一番人口が多いんですが、それですら45%なんです。このような人口構成である中で、もちろん先ほどから言われている中島地域の魅力、それから基盤産業の発展、これは大事でござ

ざいますけれど、現実には5割以上の方が高齢者であると。その高齢者の施策が遅れておると思います。

それは何かといいますと、以前は、自宅介護、後継者があったわけです。しかし、第一次産業が不振になって、結局子どもさんが出ていった。そのしわ寄せがそういう形になっております。ちなみに、中島全域470余りの独居世帯があるわけでございます。率にしたら10何%になるわけです。そのような高齢者の沢山ある地域をどのように考えるかと。松山市全体でしたら20点何ぼですから、まだまだ一般的には少ないと感じるわけですが、中島ではもう超超高齢社会なんですね。そのときに、もちろん後継者があったらいいわけですが、今住んどる者はどうするかというのが大事やと思います。

そのためには、人的に、心の支えを考えていただきたい。それで合併のときに、合併審議会にもこの東小学校の有効利用ということは再々お願いして言われておったと思います。それが、色々な理屈を、先ほど言いました、一般財産ではないとか、教育委員会の補助金をもるとるからできないとか、そうこう言いますと、今度は耐震がいかんとか、次から、次から、しない方向に何か政策がいつておるんじゃないかならうかと思っております。ぜひ、この高齢者の、6つの島の拠点になる施設をつくっていただきたい。それで、北条市と同じに合併したわけですが、北条市には立派な福祉センターというのがございます。あんな大きな施設は要らんです。その小学校の廃校の跡を有効に利用したいというのが私の願いです。

今の支援ね、特に今の中島地域には病院は1つですね。合併して、随分立派な病院が出来たんですけど、ほかの島の方はどうしても松山の方に行くんですね、そうしますと、運賃が日本一高いんです。せめて高齢者には1割程度の補助ができないか。特に聞きするのは、昔、離島航路ということで中島町は補助があったんですよ。そういう制度があるのか、ないのか、そこら辺を。

【市長】 各島を回らせていただいて、皆さんからよく言われたのは、イノシシのことを何とかして。今おっしゃられた交通費のこと。やっぱり島によっては、中島本島に来るより松山の方に船で渡って、電車で病院に行くという例を聞いて、交通費が高いんというのを伺っております。そして、もう一つ言われたのが、中島のこのセンターです。センターの利用料金がちょっと高いので、もうちょっと利用できる仕組みにしてくれんやろかと言われました。

まずイノシシのことも12月補正で助成させていただくことにした。そして、交通のことも1度指示を出しております。船と電車を使って行かれるケースが多々あるので、まず現状把握してどういう補助ができるか、やっぱり厳しいのか、その検討をしております。そして、もう一つ、センターも使いやすい料金にこのほどさせていただきます。

その中で、東小学校の利用です。現状を言いますと、ふれあいいきいきサロンが松山市内に243カ所、高齢クラブが302カ所ある。それが市内およそ490カ所の公民館や集会所などを利用しながら活動をしている。現在のところ、公民館や集会所などを他のふれあいいきいきサロンや高齢クラブがやっているの、東小のあとで、新たな福祉センターの設置の予定は今のところはないんです。ここで伺いたいんですが、東小で福祉センターをすると、どういう利点があるか、改めてちょっと伺いたいんですけど。

【男性】 福祉関係の団体が、中島地区社会福祉協議会、中島地区高齢クラブ連合会、中島地区障害者協議会、それから中島地区民生・児童委員協議会、中島地区食生活改善推進協議会、それから包括支援センター。まあ保健所は行政でございますが、福祉に関係するということで。それからボランティア団体、こういった団体があるわけですが、そこに1つの拠点があれば、すべてがうまくいくわけなんです。今はばらばらで、ましてや島が6つあるのに、その会長さんがここへ来ても自分のおる場がないんですよ。現在、地区社協がおるのは、船着き場の上の、7畳の中に3名の職員でおるわけですよ。他の島から来られた団体の方、会長さんが来ても、寄るところがない。そういうような状況で福祉を充実してやっていきたいというても、拠点がなければ、なかなか前に向いていかんのが現状なんです。やっぱり今言った団体は、1つのところに根をおろせば、横のつながりがうまくいくわけです。非常に効率的な福祉行政、対策ができると私はそう信じております。

【市長】 このあたりは、中島支所の耐震改修工事もちょうとからんでくる話だと思いますけども、どうですか。

【保健福祉政策課長】 この件につきましては、7月17日の中島地区の総代会、あるいは11月8日のまちづくり協議会の役員会等の中でも、中島支所の建て替えの問題も含めて、行政と福祉関係の活動をされておる方、社会福祉協議会が連携しながら地域の福祉を考えていくということで、中島支所の行政、福祉関係の施設の統合の

話を協議をされたということで、陳情が市長の手元に届いておりまして、市長から、調査研究の指示がありましたので、皆様が活動しやすい、行政と連携しやすい福祉の関係の拠点づくりについても、今調査研究をしておりますので、もうしばらくお待ちいただいたらと考えております。

【男性】 しばらくはいいんですけどね、6年たつとるんですよ。(笑)しばらくが10年なのか20年なのか、結局はそこら辺が、出足が悪いんです。

【市長】 そうですね。

【男性】 1年以内ぐらいに考えてもらわないかん。

【企画政策課長】 小学校の跡地の活用の件ですけれども、何とか地域の核になれるような施設にしたいというのがありまして、市なりに色々検討したんですけれども、今進んでいる方向の1つとして、民間の提案を活用して、小学校を何かに使えないかと考えてます。南小学校は、この4月に民間の提案を受けるべく、公募を開始しようとしております。同じような形で、天谷小学校の横に天谷分園というのがあったんですけども、既に民間の力をいただいて、ジュース工場みたいな形で、地域の1つの魅力に繋がるということで活用させていただいております。

今言われた、東小学校の方は、まず公共施設として使えない場合に、民間に初めて提案をいただくというような形を思っておりますので、そういう要望があるのだら、その辺も十分検討させていただきたいと思っております。

【男性】 合併の前から、統合する前から、あの施設は福祉の拠点にするんだということで、住民に説明をずっとしてきておるわけなんです。それを、今さら民間が利用するとかいうのは、目的がそれとるんじゃないかと思えます。そういうことを常に定まらんのでは、数年いうのは、今20年ぐらいかかっておりますけど、そうしますと、先ほど言うた50何%の高齢者は亡くなっていくんですね。そこら辺を、1日も早く方針を決めてもらいたいです。

【市長】 この場を本当に大事にしたいと思っておりますので、いいご意見をいただきました。ありがとうございます。私からちょっと皆さんに伺いたいことがあるんですけども、今回、タウンミーティングがあるということで、中島中学校の生徒さんから意見を寄せていただいたんですね。その中に、高浜や三津浜で、中島の島のものを食べる場所をつくったらというご提案をいただいたんですよ。ああ子どもらしい斬新なアイデアをいただいたなあ。高浜や三津浜で、例えば汁なしうどんとか、そ

ういうもの食べれる場所をつくったらええんやないかというご提案をいただきました。中学生から。

これ、いいなと思ったんですけど、逆に、「そこで食べれるんやったら、中島行かんでええか」とも思われるかと思ったんですよ。これ、難しいなと。でも、そこがある意味、松山市内のアンテナショップになって、中島に行きたいと思わせることもできるとも思ったんですよ。高浜、三津浜という行く場所であります。すごい抽象的な質問ですけど、皆さん、どう思います。

【男性】 松山市並びに市長さんには色々今年度、しまはくやら農林水産まつりでお世話になって、地域の活性化のためにご努力、ご支援いただいとるのを本当に感謝申し上げます。また来年度もそういうような考えがというと、本当にお礼を申し上げ、お願いしますということを申し述べたいと思います。

先ほど、中島でアンテナショップということでご意見があったと思うんですが、それに関連して、ここにおいては中島の産物、海産物、農産物、嗜好品、また新しい品をつくり出す人もおられるので、中島でアンテナショップも、これも1つの方法であろうし、また、中島だけでは消費し切れない、販売も少ないということで、販売開拓、販売拡大も含めて、松山でアンテナショップの常設をお願い出来まいかということ、今日意見としてこれだけは言っておきたいんです。予算的なものも厳しい折、お願いばかりで動きにくいとは思いますが、いつまでにせいとかいうことではないけども、今の活性化というのは経済が伴うことですので、許される範囲内で、松山へもアンテナショップ、海のもの、山のもの、そして嗜好品、それから新しい、皆がこういうものをつくって売りだしたいんだよということも含めて、ぜひお願いをしときます。予算もかかることであろうけれども、今後ともよろしく願いいたします。

【市長】 アンテナショップのお話が出ました。悩んでいるんですよ、本当。島に来てほしいという思いもあるし、どうしたらいいんですかね。どういうアンテナショップがいいんだろう。

【男性】 私らが子どものころは三津はにぎやかだったですね。もう雑踏のごとく商店やとった。今は寂れている。日本の縮図だろうと思うんですが。三津が栄えることによって島も栄えるのかな。島が栄えることによって三津も栄えるのかなあと。三津は協議会が立ち上がったようですから、昔から仲間なので、三津の皆さん方と

相談しながら、いい方法をとったらどうなのかと思います。

【市長】 私、また三津の朝市を活性化したいと公約で掲げて、今、三津の朝市を観光客がいっぱい来る市場にしたいというのを掲げて、今は検討に入っているところですけども、島の方から、「あの三津の朝市のところに島のものを置くスペースをつくってくださいや、そうしたら船1本で来れるし、船プラストラックじゃの、また交通費もかからんでええけん、三津の朝市に中島のものを置く場所をつくってくださいや」と言われて、「それはいいですね」とお答えしたんですけど。そうですね、できるだけ早くという部分もありますけども、何かいい形で、島にも来てもらえる形のアンテナショップって、ちょっと考えてみたいですね。

【男性】 例えば怒和地区ですが、最近、しまはくはもちろんですが、アイテムでありましたね、専門家が元怒和だけで26名ですけど、ひじきなんかとって、例えば海産物を屋外でとる人、10万円以上稼ぐ場合は専門者と見なすという、怒和地区の組合です。アイテムのときに、自分のところの地産のものを10名ずつ、2日行きました。非常に好評で、やっぱり地産のひじき、例えば同じかき揚げでも、ひじきを入れたら非常に美味しいそうです。高齢者に非常に人気で、重宝しとるんですけど、場所が無いんですよ。小さい島ですから。だから、自分のところで作って、例えば、アイテムの場合は現場でこしらえたという状況ですけど、先ほど海の家でちらっと出ましたですよ。今、海の家で使用しとるのは、ボランティアとサロン事業、これが使っとるぐらいです。そこを、例えば、販売、そこら何とか、今言う地産のいいもの、例えば時期であったら、アジをとって、その女性の方がそれを干して、一夜干しにして冷凍して、十分研究して、やっと売れるようになったというのが状況です。やから、そういう場があれば、そういう事業でやっているんですけど、海の家なんか、せっかく立派なのがあるのに、あれは展示だけですよ。無理ですかなあ。

【市長】 海の家の話プラス、やっぱり全国、他の市の事例を見たら、こんなふうには、松山という大消費地があって、中島みたいな島があってと、多分ほかでもあると思うんですよ。そういう例をちょっと見てみて、何か成功例がないのかどうか。例えば、さっき、三津の朝市を活性化したいと言ったんですけども、出来るだけ早く、いいものは売って差し上げたいと思うんですよ。先進地の事例というか、成功事例がないのかどうか、また調べてみたいと思います。

【産業政策課長】 まず、ひじきの件から。実は松山市、天日干しも架段式のものを、各漁協に整備をさせていただき、舗装もさせていただいた。実は、ひじきにつきましては、全国的に優良産地域がないものですから、ぜひ松山がこのひじきのブランドにしようということで、農林水産課と考えております。

先ほど言われたことと、共通することがありまして、1点は海の駅もさることながら、中島の特産品を売っていただく場所というものを、例えば、三津の活性化という中で、三津に商店街があります。あそこに例えば店を出す。これにつきましては、松山市商店街空洞化対策事業というのがあります。改装費とか、管理維持費を3年間補助がありますので、ぜひ皆さん共同で考えていただいて、提案していただければ、ご協力させていただけたらと思います。

【市民部長】 実は三津のまち協の方から先だって、我々の目標が決まったと。目標については、三津のまちの活性化であると。その中で、やっぱり三津の文化とか伝統とか、それだけじゃなくて、三津独自の物産をとにかく広げるといような形で目標が決まっておりますので、切磋琢磨しながら、いいところは連携しながらやると、絶対面白くなると思いますので、中島のまちづくり協議会、ちょうどこれからまちづくり計画をしようと思っておりますけども、できたら、競争し合ったり、相手のいいところをお互いに補い合う形になると、まちの活性化にも、今、市長も言ったような、本当に愛ランド里島構想と朝市の公約が、こういうふうに相乗効果になると面白いと思います。

【市長】 歴史って無視できないと思うんですよ。やっぱり、三津の繁栄と中島の繁栄は共にあるというのは、歴史がそれを証明している。

三津の商店街で若い方がお店を出しているケースがあるって聞いています。三津の商店街で今、空き店舗が目立っていますから、そういうところで中島の産物をお店をやるのも、面白いと思いますね。

冒頭お話をしたように、中島の皆さんが一体になって考えていただいて、こういうことをやりたいんと言ってもらうのがいい形と思うんですけども、これ中島の皆さんで考えていただきたい。人任せにしたとは思わないでください。皆さんが中島をどうしたいのか考えていただけたらいい。

【市長】 宿題になっていたのが、今、地震と津波のことについて、皆さん関心がありでしょうから、お話を差し上げます。

先日、新しい防災マップをお届けできました。ちょっと自慢させてください。目の不自由な方でも見やすいような色とかまで考えた防災マップになっていて、前回のより見やすい地図になっているかと思います。

南海地震は、今後30年以内に60%程度の確率で発生すると言われております。南海地震のときの津波は、松山港で第1波の到着時間をおよそ2時間10分後、最大の津波の高さを2.4メートルと予測しております。

じゃあ実際に中島ではどういうところが危険だと思われるのかというのは、今回お配りした防災マップを参考にさせていただければ、よく分かっていただけたと思います。海岸部の高潮、津波浸水警戒区域の色が着いているところが浸水の危険がありますので、それを見ていただいたらと思うんですけども。やっぱり今回も色んな想定外のことがおきました。とにかく日頃から備えをしていただいて、大きな地震が起きた場合は高台に出来るだけ早く避難をしていただくというのが、根本原則ということになるかと思います。

今回、地震が起きた、津波が起きたことで、また足りない部分があったらしっかりと生かしていきたい、改善すべきところがあったらしっかりと改善していきたいと思っております。

【男性】 中島の場合、ほとんどの避難場所が、集会所か元学校の跡地、これがほとんど海岸端なんですね。もし2メートルぐらいの津波が来た場合には、一番真っ先に命を落としてしまう場所と思われるんですよ。前から気になりよったんですが、今度の大地震であんなのが来たらしようがないんですが、地域ともども頭へ置いて考えておかにゃいかん問題と思います。

それともう1つ、さっきの魅力と産業の意義という点なんですが、中島の環境というのはものすごくいい環境のもとにおかれとるんですよ。そこに農家も、この恵まれた環境を生かし切っていないように感じるんです。これは農家も農協さんもそうです。両方が一体にならないとだめやと思うんですが、中島は、本当に日本一恵まれた柑橘産地だと思っております。ここを、再認識をしていただきたいと思っております。

そして、津波が来たときの避難場所、これは本当に、市もですが、地域の方も避難場所の位置というのは考えてみにゃいかんもんだなと。

【市長】 そうですね、これ資料に、少なくとも5メートル以上の高台、そして、ま

た頑丈な建物の3階以上の場所に避難するのが有効ということで、逆にちょっと質問なんですけども、今避難場所に言われている小学校などは何階建てぐらいですか。

【市長】 2階。だったら、そういう視点からいうと。

【消防局総務課長】 避難場所につきましてなんですが、災害時に避難する場合、地震であるとか、また地震のときの津波もそうですけど、台風のときの高潮も同じような避難が必要だと思います。避難する場合は、避難準備情報をデジタル防災行政無線の方で出しています。そういった情報を聞きまして、台風のときは高潮ですから、急いで避難する必要もないんですが、災害時の要援護者ですとか、お年寄りの方は避難準備情報で準備していただくような形で、急に来る津波につきましては、直近の高台に避難する。また学校、避難所じゃなくても、病院の屋上とか、高いところにまずとりあえず避難していただく態勢をとっていただければと思います。それも地域によって、島によって違うと思いますので、その状況に合わせてまた自主防災組織等で検討していただいたらと思っております。

【男性】 先ほどの防災のことですけど、地区によったら、確かに平成3年、それから14年、特に独居の方が1地区に30人ぐらい、多いところは60人おるんですが、特に野忽那地区、神和地区は単独で民生委員が、市とも連絡をとり合って自主避難、助かった人もいます。お寺、高いところに上がりました。14年のときは、怒和島は全く防波堤が、越して、海岸道路がほとんど浸かったり。だけど、深さは実数越した分だから、1メートルちょっとぐらいですけど、独居の方が。

そういうときに避難所を、低いんですね、集会所。そのときはたまたまお寺に逃げとるんです。高いのはお寺さん、高いですから。今、保育所になっていますけど。以上でございます。済みません。

【男性】 私は基幹産業、ミカン、それから水産業のことを含めてお願いやら現状を報告したいんですけど。

1つは猪です。野志市長に任しとったら大丈夫だろうと思っておったんですが、12月議会で、これは法的に条例とかそういう制約があって、非常に難しかったんだろうと思うんですが、ミカン、去年の6月ごろから猪被害が出てまいりました。大変な被害であります。これ、広島の陸地から新天地を求めて泳いで来るようです。それが増えた結果、ミカンを食う。その防御に対して鉄柵それから電気、金額はまだ全部じゃないと思うんですが、5,600万円ぐらい、救済できない期間の中に入ってお

るようです。これが入るだろうというふうな考えを農協さん方が持っていたのが、入らない。非常にがっかりきたというのが現状であります。これが何とかならないのかなと。3月議会に新しい施策というのを織り込んでくれておるようです。そのあたりをお聞かせ願いたいのと、もう一つ、個体をとっていくという、防御するという意味と個体をとっていくという各地区の総代さん方が猪対策協議会を立ち上げていただきまして、怒和島は25頭ぐらい、本島は30頭余り、60頭余りとしているのかな。これも情報のない中、どうやってとったらいいのか分からない中で、非常に苦心して、畏を中心にとっております。まず、一番欲しいと思うのは、日本には専門家が幾らでもおると思うんですよ。防御にしても、いち早く専門の知識をこの島へ入れる。そして、個体をとっていくのにも入れる。そして今、各地区の総代さん方が個体を捕獲したときに、その処理に大変困っておるようです。そのあたりを改めて再調査していただきまして、然るべく、我々は精いっぱいやります。もう一つ、怒和島を中心に幾ら個体をとっても、広島から入ってくるのをどう防ぐかということで、海岸線へ防除をしようという、自らやろうというふうにやりかけております。この動きは始まると思います。課題は、お金が要るので、これは松山市管内の猪の慣例からいうと、島だけ特別にということになるんだと思うんですが、広島から入ってくるという、幾らとっても無限のものがあるのかなというのがありますので、そこらを含めて私がお願いしたいのは実態調査、そして然るべく、島にあった対応を考えていただきたいということでございます。

そして、もう一つは、我々の島の誇る魅力のあるミカンの中で、従来温州、伊予柑がちょっと低迷した中で、新しい品種、まどんな、せとか、カラマンダリン、これは松山市のブランド品目に選定いただきまして、いろんな支援を受けております。今回、せとかが寒冷でかなり被害を受けまして、猪の被害の上へそれがかぶさった形で、非常に困難をきわめておる。ここからはお願いなんです、しばらくそういうブランド品目の施設に対しての、今莫大なお金を支援いただいております、非常に貴重な税金を投入していただいとるのは分かるのですが、しばらくの間お願いしたいということでございます。

そしてもう一つ、今回漁業が非常に元気がない中で、ひじきが非常にいいんです。非常にひじきの収穫が増えております。それを見込んで中島町の管内だけではなくて、松山市の沿岸を含めて13カ所、広大なひじき干場を考えていただきました。そ

これらの増養殖、そして加工、我々の島の人も一生懸命やりますので、我々の足りないところを専門的な知識をお願いしたいというところです。よろしく願いいたします。

【市長】 猪のことについては、10月ぐらいの話で、今年の果物がやられよんじゃけん、収穫期に合わせてさくとか設置するやろうと。その補助を認めてほしいというのは確かに聞いておりました。私もそうしてさしあげたいと思ったんですけども、北条の奥、玉川と接しているところはものすごい猪が出ております。松山の小野地区の方もすごい猪が出ております。中島だけという話にならないので、玉川、北条の方の話も絡んでくるし、小野の方の話も絡んでくる。期間についても、申し訳ないんですけども、12月補正のところからということでさせていただきました。そういう経緯でございます。申し訳ありません。

昨年9月補正予算で予算の追加や防護さくへの支援を内容とする緊急事業を実施しました。

4月からは新たな支援に取り組みます。例えば、捕獲報償金、猪1頭に対して2万円、猿は1等に対して3万円、そして、電気柵と金網など防護柵などの新設の経費に対して補助をいたします。そして、狩猟免許の取得に要する経費に対して補助をいたします。箱罟の購入に要する経費に対して補助をいたします。

これからは2戸以上の農家による広い範囲の農地への共同設置の推進が重要ですので、平成23年度は、現在の単独設置に加えて、共同設置に対する支援制度をつくりまして、それにかかる補助対象事業費を増やすことにしております。また、農業指導センターにおいて、市販のおよそ10分の1の価格で紅まどんなやせとかなどの、いわゆる有望品種の苗木を分譲していますので、やられた際にはそれを活用していただきたいというふうに思っております。

今後ともいろいろ考えていくことが大事なので、行政、農業団体、猟友会、農業者など、関係機関、団体で構成する有害鳥獣防止対策協議会を近々設置し、その中で鳥獣被害防止計画の策定や有害鳥獣対策、捕獲隊員の育成・確保、地元の方々への啓発などを協議検討していくことにしております。そういう組織をつくってちゃんと考えていくということですね。

今、埋め立てをしてもらっています、猪を。何でか言うたら、愛媛県の鳥獣保護計画というのがありまして、猪は原則として埋却処分となっているので、松山市に

おいてもその有害鳥獣捕獲許可によって捕獲した鳥獣の処理は、原則として埋めてもらうのが捕獲の条件になっているんです。でも今後どういう処理をしたらいいのかというのも、この協議会で協議をしていきたいと考えております。

やっぱり全体となって考えていくことが大事だと思っておりますので、猪の肉を食べたいという方もいらっしゃるので、猪カレーとかありますので、そういう形で、ただとる、埋めるだけじゃなくて、何かいい方法がないのかというのも、検討していきたいと思っております。

【産業政策課長】 協議会を立ち上げますので、その中で実態調査についても、十分に把握をした上で、必要な意味での対策を講じていきたいと思っております。

あと、ひじきにつきましては、21年、22年、ソフト・ハード整備はしておりません。先ほど言いましたように、ほとんど中国、韓国産に頼っており、もう国内産という静岡かどこかで、もう本当に僅かなんですね。ですから、ぜひそういうものを活用してつくっていただくというのが必要だと思うんですけど、ただつくるだけではいけませんので、松山市のブランドとして、今、出来てもほとんど大分とかも加工場に出して、結局松山産のブランドという名前じゃなくて全国に出回っていますので、そのための今言ったハード整備、それと今度はソフト的に、それを皆さんからそれを商業ルートに持っていく、そういうものも含めて、引き続きやっていこうと考えております。

【男性】 まず、老人福祉の方からお願いもありますけど、実は、うちの地区で2月の末に1人暮らしの老人が亡くなったんですけども、3日間ほど発見されなかったということで、うちの地区で30人余り1人暮らしの方がおられるということで、今年、地区としては、元気なときは旗を出すとかいう話を聞いたんで、そんなことでも地区としては対応していこうと思っておるんですけども、松山市としても何かいい方法がもっとあれば、知恵も貸していただきたいし、また、そのような取り組みに対しても、何かお手伝いをしていただきたいと希望をしております。

それからもう一つは、しまはくで中島、安居島等も含めて9島を、開催前に、各旅行者さんが観光スポットを色々当たっていただいて、それぞれの地域のいいところを見つけていただいたという調査がありました。

その中で、私、野忽那地区なんですけど、又カバの海水浴場がありまして、中島の中でも非常に小さな海水浴場なんですけども、今まで我々地域として何とか細々

と携わって、施設の改修等もしてきたんですけども、実際に登録されたものは1つもありません。今、年間600から700人ぐらいの観光の方がテントで宿泊されるんですけども、着がえをする施設もかなり老朽化して、何とかしてくれないかという要望はかなり出ていまして、地区としても今までそういう対策はしてきたんですけども、予算的にも非常に難しいし、今後姫ヶ浜等の改修ともかなりのあれになると思いますけども、ひとつしまはくのせっかくいいところを私たち、見つけていただいた中で何とかご検討をしていただきたいということです。済みません、お願いになりますけども。

【市長】 高齢者の1人暮らしの方が、例えば黄色い旗を元気ですよというあかしに玄関に出しておくという、「これはいいなあ」と思ったんですけど、中には悪い人もいて、あの黄色い旗を見たら、ここは年寄りが1人で住んどんじゃないって、悪いことをする人の例もあるんだそうです。色んな策を考えていかないといけないと思っております。勿論市役所としても、1人暮らしの高齢者の人をどう守っていくのか、大事なことを考えておりますので、しっかりと生かしていきたいと思っております。

ヌカバの海水浴場のことも把握をしております。今、歩いて10分程度の休校中の小学校の体育館、そして集会場を宿泊施設としている。これもできたら姫ヶ浜荘と大串のキャンプ場と併せて、まちづくり協議会の中で話していただいて、どう分担していくのかなども含めて我々も検討していきたい。何よりも、地元の方の盛り上がりがあるとありがたいので、このあたりを生かしていければ、皆さんと意見交換をしていきたいと思っております。

【保健福祉政策課長】 福祉部の方から、先ほどの件についてお話を申し上げたいと思いますが、松山市では概ね65歳以上の1人暮らしの方、あるいは高齢者の世帯の方に対して3種類の事業を展開しております。1つは緊急通報システムといいまして、ご自宅にある電話の横に、簡単な小さいボックスを置かしていただいて、何か緊急な場合があったら、それを押していただくという内容と、65歳以上の独居老人あるいは独居世帯の方に対して、高齢者の見守りという観点から、定期的にご家庭を訪問させていただくという内容の事業、あるいは松山市の電話の回線を設置をして、地域の支援センターに繋ぐ、こういった3種類の事業を主に展開しておりますが、こういった事業を組み合わせる中で、不安を解消していきたいと思っております。

個別のご相談等も受けられますので、ぜひお話をいただいたらと考えております。

【司会】 さて、このタウンミーティングに合わせまして、中島中学校の生徒さんからまちづくりに対する熱い思いのこもった提言が寄せられました。

三津や高浜に中島の郷土料理店をつくってみてはどうかという提案のほかに、島の活性化策の1つとして、しまはくのキャラクター「しまぼう」のグッズをお土産にして販売することで中島をアピールしたり、来島記念にしてみたらどうか、他にも災害対策、自然保護、国際交流といった幅広い分野で、子どもさんならではの提言をいただいております。

それでは、最後に市長から本日の感想を申し上げます。

【市長】 本当に最後の最後まで、ちょっと時間を延長させていただきましたけども、次々のご意見をいただきましてありがとうございました。

こうやって直接皆さんとお顔を合わせてお話を聞くということに意義があると思っております。何度も申し上げましたけども、私は聞きっ放し、やりっ放しというのはとても嫌です。職員たちもそうだと思うんですよ。ある意味タウンミーティングというのは、すごく手間のかかる事業なんです。各地区に出向いて行って、お話を聞かせていただいて、国・県などとも事例をちゃんと聞いて、皆様にお返事をお返しするという作業を踏みますので、1カ月くらい時間がかかってしまうかもしれませんが、ある意味ちょっと面倒な事業なんです。

でも、こうやって皆様のお声を聞かせていただく、直接お顔を見ながらお話をさせていただくというのは、非常に大事な機会だと思っております。これを実際に行政に生かしていきたいと思っております。

最後に申し上げますけども、中島のことであることを言われて、ちょっと私、むっとしたことがあるんです。「市長、あんた、中島のことについて、愛ランド里島構想ってやりよるけどな、あんた、中島が人口何ぼあるのか知っとんかな」と言われて、「知っていますよ」と。「100分の1やろうがな」と言われたことがあるんです。それでむっとしたんですけどね。100分の1かもしれんけども、松山、北条、中島が一緒になって、新松山市なんです。ですから、100分の1だからといって、私はおろそかにはしません。松山は松山でちゃんと歴史的に意味があるし、北条は北条で歴史的に意味があるし、特徴もあるし、中島もちゃんと歴史的に意味があるし、特徴もあるし。中島をしっかりと見ていきたいし、しまはくで皆さん、元気になってい

ただいたので、この取り組みを1回ぼっきりにするんじゃなくて、これからも生かしていきたいと思っておりますので、冒頭申し上げましたように、これからも行政とうまく、上手に付き合ってください。「どうせ何もしてくれへんわい」とか思うんじゃなくて、ちょっと抽象的な言い方になってしまいますけども、これからもいい付き合い方をしていただきたいと思っております。

これからも、元気な中島にするべく応援させていただきたいと思っておりますので、今後ともどうぞお願いいたします。今日はありがとうございました。

了